繪本武名薫 上

寛政新板

諺曰虎は皮に名を遺し人は功に名を留ると
以て数来ありしは其名古今に濟に品あり
ことごとく軍慮にたくましく戈矛を採て四海
を治るより太平なれし茲に英雄の後紅翠
齋の主筆を丹青に措て其名世に聡
求て今武名の先輩を画く手に閲せしむ
あはり一命を披く毎に歎ならざるはなく美
けるハあし嗚呼子が筆力なくんば畫中の士
何處か勳名の永世に流るゝとふ事あらん
巻端に毫を揮ものは式上亭柳郎

柳郎

三韓をせめしたかへ

げ日の本へ久りて海りして紀乃加田の浦淡島に出神祝詞ゑなきこゝにてやすく／＼と應神天皇を産ますこれ八幡宮なり

神功皇后

武内宿禰

ちちも木もわが世に君乃國なれば
いづくか鬼乃すみかなるらん
ことのよ哥ん
かうくゑんだり

たいらのさだもり
平貞盛

ふぢはらのちかた
藤原千方

八幡太郎義家

奥刕武衡征伐のとき雁の十方にみだれさるを見すゑ扨へ平野に伏勢ありとてたづねゆくゑ

それぞ果して三千餘騎ありしとかや

坂上田村将軍
清水寺乃観世音
の功力よりて勢州鈴鹿山乃悪鬼を
たいぢして今の音羽山へ伽藍を立んと彼地にいたれ
上ノ四

鎌倉殿の不興を
蒙り一旦西国へ
趣かんと摂
州大物乃浦より
舩にのりて出るに
ゆくに風波を
おこし刀へしが
先年討亡せし
平家の一門と
ぐわうれう舟
をくつがへさんと
を

武蔵坊弁慶

源義経

信州川中島合戦と
世にしられて古人
も其実事を
わかりさぞ
長尾謙信
武田信玄

清盛の無道なるは
いへどもかぎりなかりけれ
ミそかにむほんを
押かし石立あらしふ
頼政通りて大将は
うけ承まはれ

源三位入道
頼政

高倉院

碓井貞光（うすゐのさだみつ）

市原野鬼童丸（いちはらのきどうまる）

源頼光朝臣（みなもとのよりみつあそん）

源九郎義経
堀河夜うちの段
御厩喜三太